

関係機関長 殿

沖縄県病害虫防除技術センター所長
(公印省略)

病害虫発生予察技術情報について

令和6年度病害虫発生予察技術情報第15号を発表したので送付します。

令和6年度病害虫発生予察技術情報第15号

かんきつにおけるゴマダラカミキリ類の防除対策について

ゴマダラカミキリ類の幼虫はカンキツの主幹に食入して樹勢を低下させるほか、しばしば樹を枯死させます。成虫は3月中旬以降羽化して産卵を開始するため、被害拡大を防ぐためにも今春の防除対策を徹底しましょう。

1 生態

沖縄県内には在来種のオオシマゴマダラカミキリ、ヨナグニゴマダラカミキリ、外来種のゴマダラカミキリ、タイワンゴマダラカミキリの4種が生息しており、沖縄本島ではヨナグニゴマダラカミキリを除く3種が分布している(図1)。本県において生態が調べられているゴマダラカミキリについて以下に記述する。

- (1) 成虫は3月中旬～7月にかけて主幹に脱出孔を開けて羽化し、樹冠上で見られる成虫は5月後半～6月中旬にピークとなる。成虫は産卵のため葉や枝表皮を後食する(図2)。成虫の寿命は約63日(37～82日)、産卵前期間約11日(9～13日)、産卵期間約38日(20～64日)、室内試験での産卵数は約43卵(17～87卵)である。これらを考慮すると、産卵はおおよそ4月～8月頃まで行われると推測される。地表から高さ約10cm内の主幹に傷を付けて産卵することが多い(図3)。また地表面に露出した根に産卵する場合がある。
- (2) ふ化した幼虫は主幹や太い枝に食い入り樹皮下の形成層を食害する(図4)。主幹周囲の形成層に坑道を掘り進んでいく。さらに成長すると形成層から材質部まで食入する。その際に、木くずまたはおがくず状の糞(フラス)を樹皮より排出する。
- (3) 幼虫は材質部内で越冬して早春のうちに蛹化室を作り、その中で蛹化するが、一部は翌年まで幼虫のまま過ごす個体もみられる。

2 防除対策および注意すべき事項

- (1) 耕種的防除および物理的防除を中心に防除対策を行う。
- (2) 産卵抑制のため、主幹に地表から60cmの高さまで産卵防止用の防虫ネットを巻き付ける。根が地表に露出している場合は、その部分も被覆する(図5)。
- (3) 成虫は見つけ次第、捕殺する。
- (4) 産卵痕には樹液が湧出していることが多いため、ほ場をよく観察し、卵、幼虫の早期刺殺を行う。
- (5) 成虫の発生ピークの前後に登録農薬を散布する。
- (6) 食入痕が見られたら、孔道のフラスを取り除いて、殺虫剤を注入する。



図1. ゴマダラカミキリ類成虫

左) ゴマダラカミキリ、中) オオシマゴマダラカミキリ、右) タイワンゴマダラカミキリ*



図2. 樹皮の食害（後食）*



図3. 主幹に産み混まれた卵



図4. 枝内の幼虫*

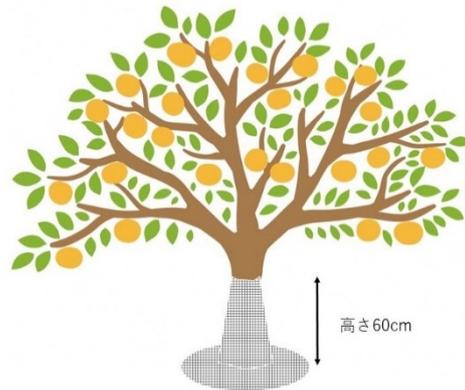


図5. 防虫ネットの巻き方事例

*写真は北部農林水産振興センター農業改良普及課 光部 史将 氏提供

参考文献

蔵盛一夫（1988～1991）． 沖縄県農業試験場病虫部試験成績書．

片山晴喜（2015）． 果樹の病害虫診断事典．

川村満（1986）． 高知県農林技術研究所研究報告．

★詳しくは沖縄県病害虫防除技術センターにお問い合わせ下さい★

TEL：（本所）098-886-3880、（宮古駐在）0980-73-2634、（八重山駐在）0980-82-4933

ホームページアドレス：・

